

科目 No.454 リスク学事例研究 4 リスクの回避と工学の役割	<b>講義名: 15. 今後のリスク管理手法と安全技術の伝承</b>
	講師名: 岩村 孝雄 (SCE・Net)

講義概要	リスク管理と災害防止に一層の管理技術、防災技術の進歩が望まれますが、併せて過去に蓄積されてきた「安全技術の伝承」も重要です。全体のまとめとして防災技術の将来方向が如何にあるべきかを論じることにします。
------	--

目次	1. 重大事故                      2. 高圧ガス関係事故調査 3. マニュアル                    4. 教育                              5. 安全管理手法 6. 安全技術の伝承    7. まとめ
----	--

化学工場での大きな事故が続発しています。これに JR 福知山線脱線事故や三菱自動車、雪印食品の不祥事が続いています。社会的な新しい不祥事も起こっています。事故のたびに再発防止が言われますが必ずしも良くなっていません。この原因と防止策について調査結果も含め議論してみましょう。

「現場のベテランが退職する。工場建設が少なくなりスタート・ストップの機会がほとんどない。現場の合理化によりオペレータの数も減り、教育に時間を割けない。個々のマニュアルは精緻を極めるが全体を統括できる指揮官が育っていない。」これらについてどう対応すべきでしょうか。トップが安全第一で経営を進める。愚直なまでに教育を、しかも実感できる教育を進める。そして事故を少しでも軽減できるように努力し、やがて事故撲滅への道を開く必要があるでしょう。

**【化学・生物総合管理の再教育講座】**

**【お茶の水女子大学LWWC】**



**指差呼称を  
どのように定着させるのですか？**

**大きな声で  
指差呼称を  
しよう  
ヨシ！**

日常の作業の中で、ここは間違えると重大な事故になると思われる場所を重点化して、「指差呼称シール」を貼付したり、横断歩道や曲がり角などには「足型マーク」などを設置していますので、そこでは意識的に指差呼称をしてください。

朝礼・終礼時に職場のみんなで行う指差唱和、指差呼称演練の実施、指差呼称模範者の認定なども、正しい指差呼称を身に付けるチャンスですから、日頃から決められた場所で大きな声で指差呼称をして、本当に大切な時に、きっちりと指差呼称できるように習慣付けましょう。

**ある現場での努力**

出典: 東レいびる Sep. 2004